

2011 年度第 1 回 FD研究会の開催報告

授業を善くしたいと考える教員が集まり、自由に意見交換する場（ラウンドテーブル）を設けた。日頃感じている悩みや課題を語り合い、さまざまな経験や知恵を交流する中から、自身の取組を振り返り、授業改善へ向けた気づきを得ることを目的とした。あわせて、FDセンターとして本学のFDの方向性、ビジョンを探るための材料を得ることを狙いとした。開催に先立ち、教職員コミュニケーションセンターに討議テーマの希望を募る調査ボードを貼り、投票を受け付けて教員の関心を把握する試みを行った。

【概要】

テーマ：例えば次の観点で自由に語り合ってみる

- ・ 学生の意欲や理解を高めるための実践的な工夫
- ・ 発達障害など学習に困難さを抱える学生への対応
- ・ 欠席や遅刻、私語など学生の受講態度への対応

日 時：2011 年 6 月 30 日（木）13：30～15：00

対 象：専任教員

【成果】

10名の教員が参加した。2つのグループに分かれ、次のテーマでフリーディスカッションを行った。

- ✓ 学生の意欲や理解を高めるための実践的な工夫
- ✓ 発達障害など学習に困難さを抱える学生への対応

参加者は日頃感じている学生の特徴、授業を進める上での難しさ、苦勞、悩みなどを相互に披露し合い、問題意識や課題を共有し、学生対応や授業改善へ向けた気づきを得たようだ。参加者からは「こうした機会を増やしてもらいたい」、「今後も定期的で開催していただきたい」、「Web等を活用した情報共有ができないか」という声が寄せられた。



今後、より多くの教職員がFD活動に参加するためのテーマを設定し、スタイルを工夫する必要性を感じた。

参加者アンケートから抜粋

- ✓ 発達障害に関する多様な問題とそれに対する経験談も話題にのぼり、勉強させていただいた。
- ✓ ほめること、自信をもってもらおう工夫の再認識をさせていただいた。
- ✓ （発達障害を抱える学生への対応について）「悩みを自分だけで抱えることはよくない。関係する人達に相談して、自分が関わる領域でサポートすれば良いのだ」と再認識した。関係する教職員がそれぞれの得意分野を活かして、相手にとって望ましい支援を行えばよいことなのだとなつた。
- ✓ 意欲のある学生とない学生を混ぜることで双方にいい影響が出ないのではないか。多人数講義ではどう対応すべきか。なかなか解決策がみえない。
- ✓ 学生タイプにあわせた層別化と適切な処遇の必要性を感じる。
- ✓ （学習スキルや学力の多様性に対応するため）評価の方法を複数化するなど、参考になるヒントをいくつも得ることができた。
- ✓ 学生のちょっとした前向きな気持ちをうけとめてあげられるような対応が必要だと感じた。
- ✓ 各教員の地道な試みを発掘し、それらを共有することで（内部創発的に）SGU教育プログラムを形成することを目標にFD活動を続けてほしい。

